

道路計画の構想段階における総合的評価（構想段階評価）について

1. 構想段階評価とは . . . **別紙1**参照

構想段階において「概略計画」を作成するための評価

2. 検討の背景

- (1) 道路計画プロセスの透明性、客観性、公正さの確保
構想段階において、透明で、客観的かつ公正な評価を行うことが求められている。
- (2) 環境行動計画への対応
構想段階において環境を含めた総合的な評価の実施が求められている。

3. 検討事項

- (1) 評価の進め方
評価のプロセスを整理し、具体的な進め方を提案
- (2) 評価の内容
具体的な評価項目と評価結果の整理の仕方等を提案

4. 評価の進め方 . . . **別紙2**参照

- (1) 概略計画作成までの構想段階評価の具体的な進め方を規定
先ずステップ1で「当該道路の必要性を確認」し、続いてステップ2以降で「妥当な概略計画案を選定」する。

ステップ1 目的・課題を整理し、当該道路の必要性を確認
ステップ2 代替案と評価項目を設定
ステップ3 代替案を比較、評価し、概略計画案としての妥当性を検討
ステップ4 代替案の中から概略計画案を選定

- (2) ステップ1～4のプロセスで、P Iの具体的な取り組み内容を規定

5. 評価の内容 . . . **別紙3**参照

- (1) 「必要性の確認」と「概略計画案の妥当性の検討」の2つに分けて評価を行い、評価項目と評価結果を表形式に整理して公表
- (2) 評価の標準項目の分野は5つ
交通状況の改善、
土地利用・市街地整備への影響、
技術的な実現可能性
環境の改善・影響、
社会・地域経済への貢献、
- (3) 評価項目は、標準項目の他に、地域や事業の状況に応じて設定（場合によりP Iの結果も反映）。
ここでは、評価項目と評価結果の整理の仕方を表形式で整理するため、記入様式案を提示（記入例も参考例示）。

構想段階評価とは

構想段階における総合的評価（構想段階評価）は、路線別計画の最初の段階である構想段階において、概略計画を絞り込む手続きの中で行われる評価

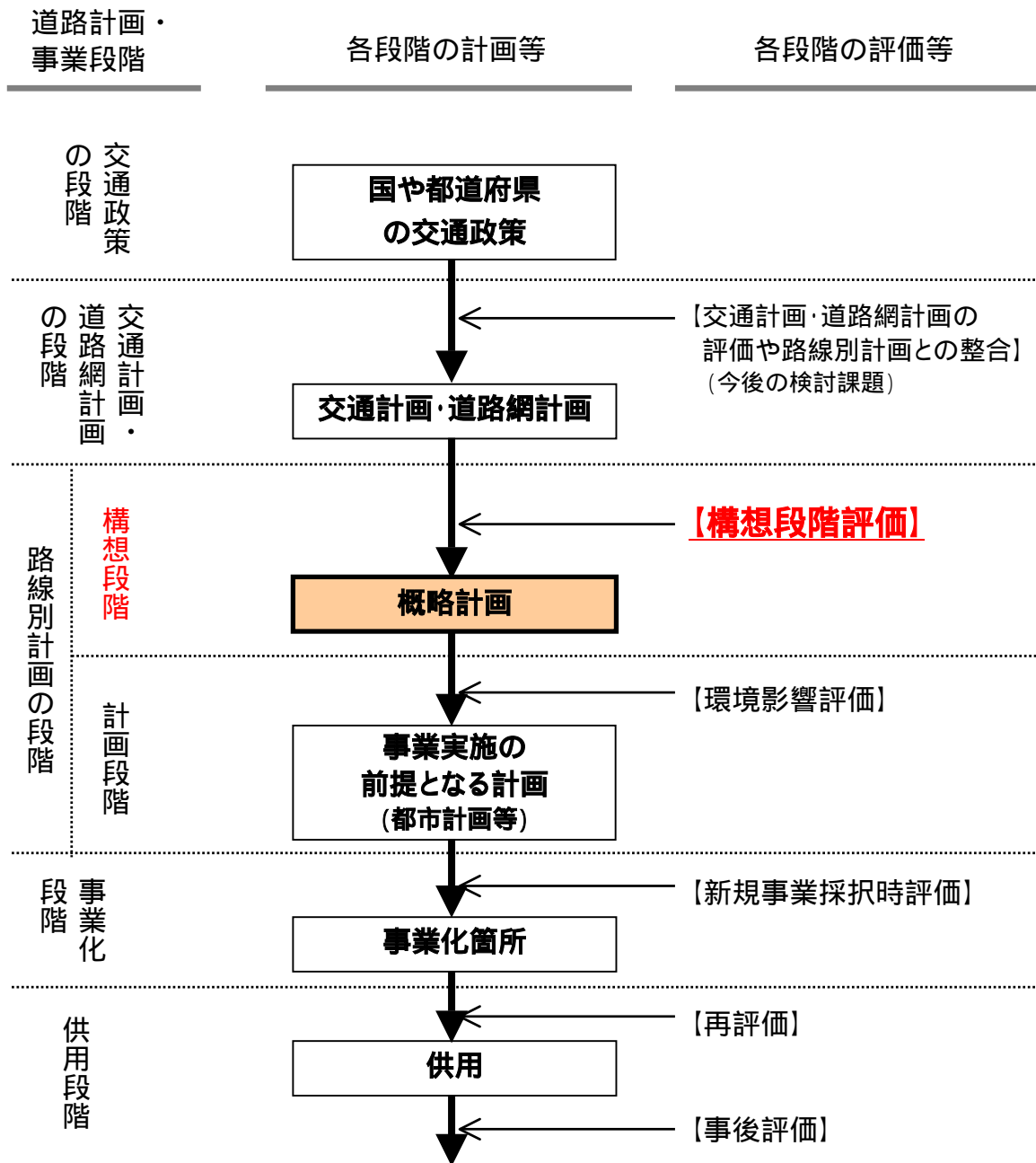


図 道路計画・事業の段階における構想段階評価の位置づけ

構想段階評価の進め方(案)

ステップは大きく 2 分
 先ずステップ 1 で「当該道路計画の必要性の確認」を行う。続いて、ステップ 2 以降で「代替案の比較を通して概略計画案を選定」する

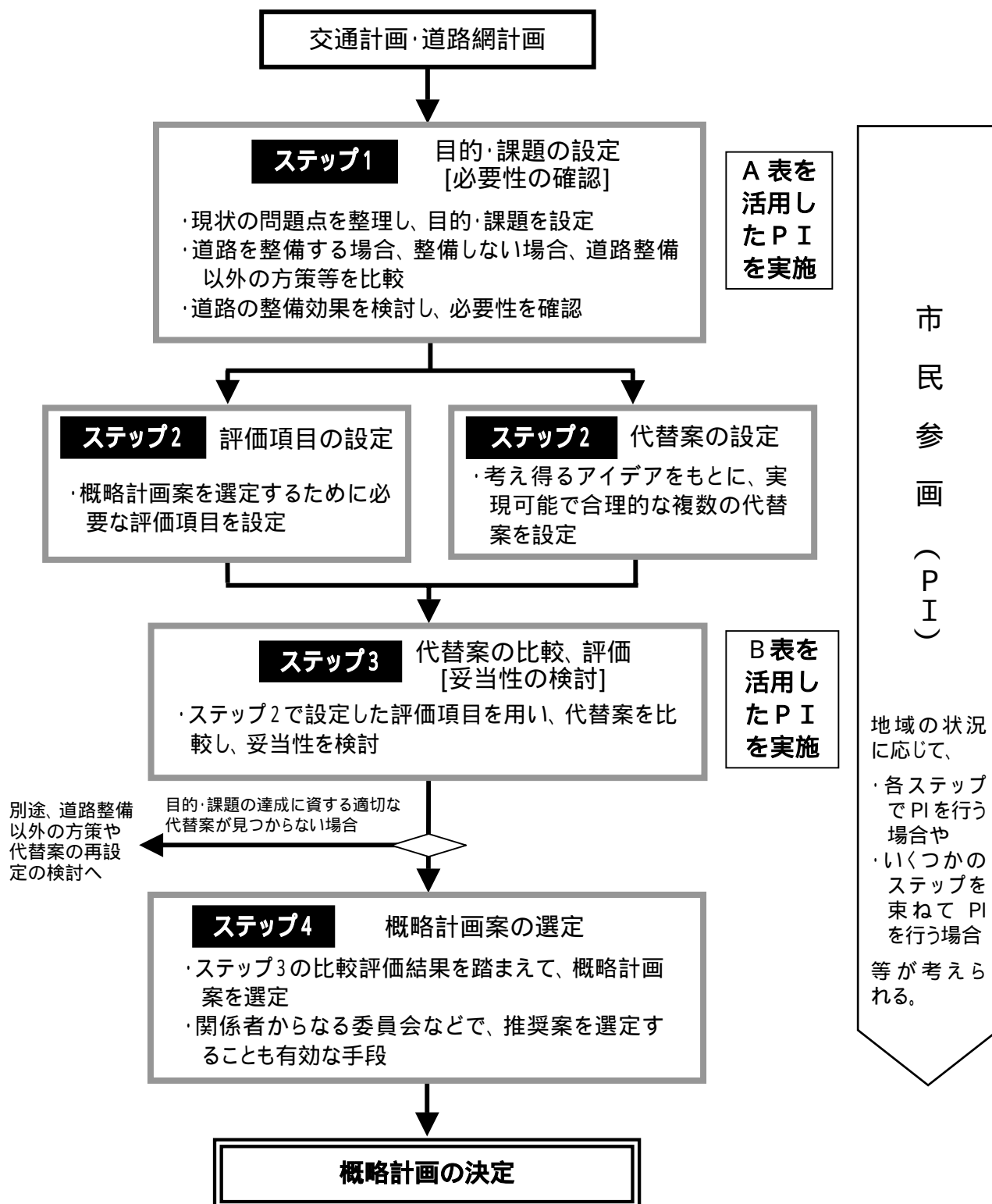


図 構想段階評価の基本的な進め方(案)

評価項目と評価結果の整理（記入様式案）

1. 「道路計画の必要性を確認」するための評価

目的・課題を整理し、評価項目を設定

道路を整備する場合、整備しない場合、道路整備以外の方策を比較するための案を設定

A表 「道路計画の必要性を確認」するための評価項目と評価結果（記入様式案）

分野	評価項目 （目的・課題）	道路を整備する 案	当該道路整備 以外の対策案	整備しない案 （現状維持の案）	評価結果 （整備効果等）
交通状況の 改善					
環境の改善					
社会・地域 経済への 貢献					
その他					

は標準。評価項目は、計画毎に必要なに応じ追加するものとし、PIの結果も反映。

2. 「概略計画案を選定」するための評価

概略計画案を選定するために必要となる評価項目、代替案を設定

評価の標準項目は、交通状況の改善、環境の改善・影響(環境アセスの標準項目を含む)、土地利用・市街地整備への影響、社会・地域経済への貢献、技術的な実現可能性標準項目に加えて、地域や事業の状況に応じて評価項目を設定(PIの結果も反映)

B表 「代替案比較を通して概略計画案を選定」するための評価項目と評価結果(記入様式案)

分野	評価項目	A表から	代替案 A	代替案 B	代替案 C	評価結果
交通状況の改善		✓ ¹⁾				
環境の改善・影響	環境の改善	✓ ¹⁾				
	環境への影響	大気質 ²⁾				
		騒音 ²⁾				
		動植物 ²⁾				
		生態系 ²⁾				
		景観 ²⁾				
土地利用・市街地整備への影響						
社会・地域経済への貢献		✓ ¹⁾				
技術的な実現可能性						
その他						

■は標準。評価項目は計画毎に必要なに応じ追加するものとし、PIの結果も反映。
 ステップ1の評価項目(A表で用いた項目)は、ステップ2以降(B表)でも評価項目に設定
 環境影響評価の項目は、標準項目として設定。

1): 必要性を検討するためにA表で用いた項目。2): 環境影響評価の標準項目。